

【重点研究1】

今後の10年間の中山間地域振興に必要な視点

研究期間 2022年4月～2025年3月（3年間）

担当者：地域研究科研究員（研究統括：有田）

背景と目的

中山間地域では、今後10年間で人口と担い手の減少、高齢世帯の増加が急速に進むと可能性が高くなっています。その場合、中山間地域のコミュニティ、産業、生活機能、社会インフラの持続性や、行政組織の状態へ大きな影響があると考えられ、バックキャストの視点も持ちながら、必要な対策を整理しておくことが不可欠です。

そこで、本研究は、令和3～5年度の地域研究科の全ての研究成果を集約し、次の作業を行います。
 ○10年後の人口、世帯構造、集落の状況、生活機能の状況の予測
 ○人口対策の効果をより高めるために必要な対策、および地域の人口が縮小した場合に必要な対策の視点の整理

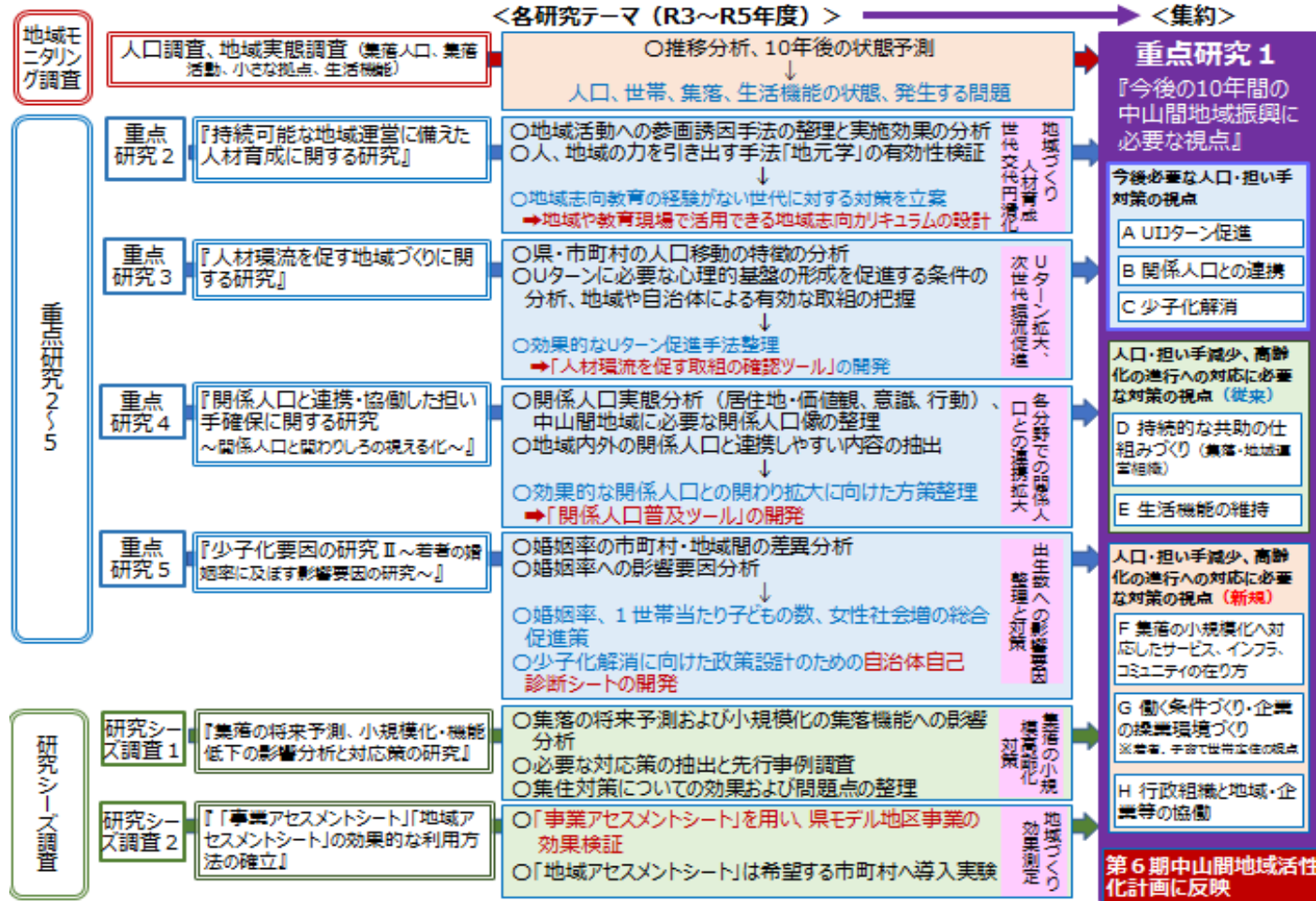


図 研究のイメージ

研究の方法と到達点

研究の方法	研究の到達点
①人口動態・世帯構造の推移分析、10年後の中山間地域の分析	<ul style="list-style-type: none"> ◆人口及び世帯構造推移分析、10年後の将来人口及び世帯構造予測 ◆10年後の集落、地域運営組織、生活機能の状況の分析及びそこから発生する問題の整理
②今後必要な人口・担い手対策の視点	<ul style="list-style-type: none"> ◆①を踏まえた現行の人口・担い手対策（定住、少子化、関係人口）の課題、今後の人口・担い手対策の効果・確実性向上に必要な視点の整理
③人口・担い手の減少、高齢世帯増加が更に進行した場合に必要な対策の整理	<ul style="list-style-type: none"> ◆①を踏まえた現行の集落対策、小さな拠点づくりの課題整理、必要に応じて人口・担い手確保の整理検討